

九州南部地区連盟 大会規定

1. チームの登録選手は、20名以内とする。
2. 出場選手は、大会参加申込期限までに、九州南部地区連盟(以下「南部連盟」という)に登録済みの者に限る。
3. 小・中学部とも、女子の出場を認める。尚、小学部は2人迄、3年生の出場を認める。
4. 開会式に参加する選手は、同一・同型のユニフォーム・帽子・スパイクを着用すること。
5. 大会参加申込締切り後は、選手・監督・コーチの追加・変更及び背番号の変更等は、当該大会終了迄認めない。登録用紙と背番号が異なる選手・指導者は、当該大会への出場ができないので、十分注意すること。
6. ベンチに入ることができるのは、登録された背番号をつけた選手20名以内と監督(背番号60)・第1コーチ(背番号50)・第2コーチ(背番号55)(以下「指導者」という)そしてマネージャー(女子でも良い)の4名とする。また、主将の背番号は10番とする。
7. 指導者は、選手と同一・同型のユニフォーム・帽子・アンダーシャツ・ストッキング・スパイク・ベルトを着用すること。マネージャーは、試合帽子を揃えること。
8. マネージャーの服装は、10月～5月まではチームジャンパーに黒か紺のズボンを着用し、6月～9月までは上は白シャツに、下は黒か紺のズボンを着用すること。また、靴はシューズとする。
9. 指導者が何らかの事情により、指揮が取れない場合は以下の措置をとること。
 - (イ) 監督が欠席の場合はコーチ2名とマネージャーでベンチ入りし指揮をとる。
 - (ロ) コーチ1名が欠席の場合は監督とコーチ1名・マネージャーでベンチ入りをし、指揮をとる。
 - (ハ) 監督とコーチ1名が欠席の場合はコーチ1名・マネージャーでベンチ入りをし、指揮をとる。
 - (ニ) 監督・コーチ2名の計3名共何らかの事情により、指揮が取れない場合は、指導者名簿に登録されている者が代理を務めることができる。この場合代理者はユニフォームの袖に監督代行のリボンをつける。
10. 試合開始1時間前に試合会場に到着し、その旨を大会本部に報告すること。
11. 組み合わせ表にある試合開始時刻はあくまで予定であり、第2試合以降のチームは予定時刻1時間前までに試合会場に集合すること。
12. 組合せの若番号が1塁側のベンチ、後番号が3塁側のベンチに入る。
13. チームが試合予定時間に試合会場に集合できない時は、原則として棄権とみなす。その場合は、7対0のコールド負けとする。ただし、交通事故等の緊急事態が発生し、事前に連絡があった場合は連盟大会本部で協議し、試合時間を変更して行う場合もある。
14. スターティングメンバー表の提出は、第1試合目は試合開始予定時刻30分前までに大会本部に3部提出し、第2試合以降は、前試合の3回終了時に提出し、先攻後攻を決定する。なお、メンバー表は連盟規定のものを使用すること。
15. 先攻・後攻は、メンバー表交換時に、主将によりジャンケンで決める。
16. 審査は、第1試合はグラウンド内で同時に行い、2試合日以降は前試合の3回終了と同時に危険のない場所を確認して行う。
17. 登録選手全員セーフティーカップを着け、各自審査カードを所持して審査を受けること。
18. 選手の整列、指導者の立ち会いにより審査を開始し、審査カード及び登録名簿で確認する。大きな声ではきはきと行うこと。
19. ヘルメットは、各チーム10個以上同色のものを揃えること(審査の対象となる)。
20. 捕手用具は、2セット準備すること(審査の対象となる)。ミットは、小・中共捕手専用を使

- 用すること。また、捕手用ヘルメットはマスクと一体化された製品のものは使用禁止とする。
21. ブルペンでの投球練習は、捕手はヘルメット、面、プロテクター、レガース、カップ式を着用し、投手もヘルメットを着けて行うこと(野手のキャッチボールについてもヘルメット着用のこと)。スパイクはミドルカット迄認める(ロングは不可)。尚、同色・同型で統一すること。
 22. ブルペンでの投球練習は、投手はヘルメットを着けてベンチ側より外野方向へ向かって投球すること。
 23. グランドボーイもヘルメットを必ず着用すること。
 24. シートノックは後攻チームから、開始のコール時より5分間とする。
 25. 試合前のシートノックについては、指導者に限る。シートノックを担当する者は選手と同一・同型のユニフォーム・帽子・スパイクを着用すること。また、マネージャーがグランドボーイをつとめることは許可するが、その際は必ずヘルメットを着用すること。
 26. 相手チームのノック中はベンチ内で観戦し、キャッチボール、ノック、素振り等してはならない。
 27. 試合は、公認野球規則によって行い、連盟大会規定でもって補う。
 28. 大会が雨天等により日程が消化できない場合は、連盟大会本部で別途協議し、日程・試合会場を変更して行うこととする。
 29. 試合球は、連盟より支給する。
 30. **小学部は変化球ならびに偽投を禁止する。また、中学部においては9月1日から翌年3月31日までの期間、変化球の使用を禁止する。**
 31. ボークは、小学部・中学部とも警告なしで宣する。
 32. 小学部の塁間及びピッチャープレート・ホームプレート間は次のとおりとする。
 - ・塁間.....23m
 - ・ピッチャープレートとホームプレート間.....16m
 33. 小学部のバットの長さは82cm 以下とする。
 34. 試合開始時には球審のベンチ前のコールと同時に両ベンチ、スタンド、本部席等関係者全員一同起立してあいさつをかわす。また、プレーボール宣告時にも全員一同起立すること。
 35. ベンチ内での携帯マイク・携帯電話等の使用を禁止する。喫煙及びガムを口に含んで、グラウンド内に入ることを禁じる(ベンチ外の所定の場所で喫煙すること)。
 36. ベンチ内のメガホンは5個以内とする。ベンチからの声援は少年野球選手らしく、自チームの士気を高める様な声援をすること。
 37. 試合は、小学部6回(中学部は7回)とし、試合時間は、小学部1時間30分、中学部2時間(ロスタイムはとらない)とし時間を超えたら新しいイニングに入らない。延長戦は時間があれば小学部・中学部とも準決勝までは1回の延長戦を認める。決着がつかない場合はエキストライニングを1回行う。決勝戦は、時間内であれば延長を2回行い、それでも決着がつかない場合は、エキストライニングを2回まで行う。**エキストライニングは、一死満塁とし、打順は次打者より行う。**それでも同点の場合は、最終出場メンバー9名でジャンケンを行い勝敗を決める。
 38. 小学部は4回以降7点差、中学部は5回以降7点差で、コールドゲームとする。但し決勝戦は行わない。
 39. 投手は原則として、ダブルヘッダー(小学部6回、中学部7回)の連投はできない。しかし、小学部は投球回数が6回をこえない場合、次の試合との合計が6回になるまで認める(中学部は7回)。**なお、試合日程の関係上、1日に3試合を行う場合においても投球の制限回数は同じとする。**

40. 指導者が、投手に対する指示を与える目的をもってタイムを要求する場合、直接・間接を問わず1イニング1回までとし、2 回目は自動的に投手交代となる。この場合、投手が1度他の守備位置についたら、再び投手として登板することはできない。
41. 指導者が選手にアドバイスする時は、ファールラインの所で行うこと(もちろん、ベンチより駆け足で(中学部においては、選手を伝令として行う))。遅延行為とならないように速やかに行うこと。
42. 攻守交代は、駆け足でスピーディーに行うこと。
43. ランナーコーチおよび先頭打者となる選手は、攻守交代時にはベンチのミーティングに参加せず、直ちにコーチャーズボックスおよびバッターボックスにはいること。
44. 投球を受けた捕手は速やかに投手に返球し、また捕手から返球を受けた投手は速やかに投手板を踏んで投球位置につくこと。遅延行為とならないようにすること。
45. 打者は、速やかに打者席に入りバッターボックス内でベンチからのサインを見ること。試合中、スパイクの紐を意図的に結び直すためのタイムは認めない。
46. イニング終了で攻守交代の際、守備側はボールを転がさず、きちんとマウンドに静置すること。
47. 試合中、攻守交代時に限り控え選手が外野の方向へランニングすることは認める。
48. 代打者、代走者の通告は、氏名とともに「代打者」または「代走者」の背番号を球審に見せその旨を告げることとし、球審も放送席に向かって選手の番号を見せて、「代打」または「代走」と告げる。
49. 野手・投手共リストバンドの使用を禁止する。
50. 手袋は守備時は投手のみ不可。手袋の色は白か黒の一色とする。走者も手袋の使用を認める(手に持ってはいけない)。手袋に滑り止めのスプレー・クリームの使用を禁止する。違反した場合は、次の試合からチーム全員の手袋の使用を禁止する。
51. 野手・投手が腕の手首にリストバンド(サポータなど)を使用することを禁止する。また、グラウンド内での選手及び指導者のサングラスやネックレス等、風紀を乱すものの着用は禁止する。
52. エルボーガード・レッグガードの使用は認める。
53. マスコットバットを次打者席にもちこむことは差し支えないが、プレイの状況に注意して適切に処理すること。試合球場での素振り用鉄パイプ及びリングの使用を禁止する(バットリング、鉄棒、トレーニングバットの持ち込みを禁止する。) 金属バットや、用具に特別な細工等をしてはならない。
54. 試合中のグラウンド内での次打者の素振りは禁止する(次打者は、サークル内において、ひざをつけて待つ)。打者がサインを受ける場合は、バッターボックスから片足を外して受けること。遅延行為にならないよう注意すること。
55. 危険防止のため、足を高く上げてのスライディングを禁止する。現実にこれが妨害になったと審判員が判断したときは、守備妨害で走者をアウトにする。
56. 作弄的な空タッチは禁止する。現実にこれが妨害になったと審判員が判断したときは、オプストラクションを適用する。
57. プレイヤーが塁上に腰を下ろすことを禁ずる。
58. 守備側からのタイムで試合が停止されたときは、その間投手は捕手を相手に投球練習をしてはならない。
59. 試合中のラフプレーは絶対させないように指導する。
60. 相手チームや審判員に対する聞き苦しい野次は厳禁する。
61. 審判や相手プレイヤーに対して限度を超える侮辱または暴力を厳禁する。
62. 試合中本塁近くのバット・マスクは審判員が取り除くものでなく、次打者が守備妨害にならないように早く取り除くこと。
63. 投手のウォームアップ終了時に、捕手がセカンドへ送球する球に投手は注意する。

64. 投手のウォームアップ時に各回の先頭打者と次打者が打者席付近に近づき、タイミングを測る行為は禁止する。
65. バッテリーの球種配合のサインを打者に対し、走者・コーチーズボックス・ベンチ等から伝達することを禁止する。
66. ベースコーチが打者走者の触塁に合わせての「セーフ」のジェスチャーとコールは禁止する。
67. チームが守備につくとき、控え選手はベンチ前2m以上出ないようにする。
68. DH の採用(できるだけ多くの選手を試合に出場させることを一目的としている)は下記の項目にて行なう。
 - (イ) 試合前に指名しなかった時は、その試合で指名打者を使う事は出来ない。
 - (ロ) 指名打者に代えて、代打を使っても良いそれ以後、指名打者となる。
退いた指名打者は再び出場出来ない。
 - (ハ) 指名打者が守備についても良い。打撃は自分の打順の所で打つ。
但しDH制は、その時点で終了とする。
 - (ニ) 指名打者の打撃順は番が固定されており、打順を変える事は出来ない。
 - (ホ) 指名打者に変わり出場させようとするプレイヤーは指名打者の番が来るまで届け出る必要はない。
69. 審判員は、スポーツ障害保険に加入していることを条件とする。
70. 大会規定に違反、または連盟規約第41条に抵触したチームは注意・出場停止・除名等の処分を課すこととする。